

(1) 趣法米関係

○ 比婆郡高野町・伊吹家文書「御紙上書扣」(文久三年)

(広島大学国文学部蔵)

態申達

比和・高野山両組趣法米兼而被申出候趣も有之、此度両組引分ケ御用遂候申談、高野山組左之者共へ算用合取約々、早急引渡方可被取斗此段申達候、以上

(文久三)

十一月二日

別取立方取約、早々様子可被申聞、此段申達候、以上

神川 平助

態申達

天保年中取立候高野山組仕法米是迄割庄屋助十郎引受ニ候処、此度御自分兩人右渋滞取約方被申談候間、算用合同人々承札シ渋滞不納之人別取立方取約、早々様子可被申聞、此段申達候、以上

十一月二日

神川 平助

上湯川村庄屋 五郎左衛門 殿

下門田村同 栄 助 殿

○伊吹家文書「添田伊久登より惠蘇郡各村返納米ニ付達書」

(広島大学国文学部蔵)

覚

惠蘇郡

一諸御貸年賦返上其外御取替口々返上取立難渋救受持之儀ハ兼而相調

焦点をあわせたもので、一揆に至るまでの過程が詳しい。後者には発頭取人名も挙げられており、現在では稀刊本となっている。このほか比婆郡比和町毛利敏夫氏所蔵「惠蘇郡村々百姓気動仕候節書類控」は、村役人間の書簡や一揆中の注進を含んでいる点でも重要である。ここでは岩武家文書「惠蘇郡村々徒党之節諸控」と同「郡中惣百姓騒動一件諸扣」(ただし前者と重複部分は省略)の二点を紹介したい。なお、趣法米関係史料も若干ながら紹介しておく。

居候処、今般村々一統仕法相約リ候ニ付而ハ、永年賦もの等一切年賦ニ払縮せ候様之儀ニ而、返上取立米多分之増取立ニ相約リ、尤斯ク難渋ニ陥リ候付而ハ一統上下借等之高利之借米いたし、見ス／＼衰微いたし難渋ものハ弥以落沈ミ難被捨置ニ付、此取立米高利拾替方へふり向、一割利倍返上相片付ケ候仕法ニ御座候間、去々^{元治元}戊午^{安永元}已來之取立米ハ不及申ニ差懸ル品ハ此返上取立米之外別段無之、当分御取替之儀御示談及ヒ可申ト申值仕候儀ニ付、当子年取立大辻左之通村々郷藏へ取立置申度旨、宜被仰談度可被下此段申出仕候

附リ、仕法方之儀ハ近々之内別帝ヲ以委細及御示談可申候へ共、右ハ畢竟郡免割之減少惠蘇郡中ニ而大辻式千七百石石余之減シニ相成候ニ付、多分之増取立ニ相成候とも百姓共手元へ當り候而ハ余程之免下リニ相成、一統相欲居実ニ改革之大業相貫キ此上ニなき結構之事候、評定仕候間格別ニ被仰談可被下候

一米式千三拾六石五斗六升八合五勺

諸御貸米銀其外諸取替口々御代官所才覚銀等返上口々へ當テ、
永年賦取縮メ当子年割賦取立仕

内

四百拾九石八斗三升八合式勺

(是迄年賦通り相納メ候石数)

差引千六百拾六石七斗三升三勺

全ク当子年々増取立ニ當ル

已上

(元治元)
十一月

(2) 一揆關係

○庄原市・岩武貞正氏藏「惠蘇郡村々徒党之節諸控」(慶応三年)

(表紙)

慶応三年

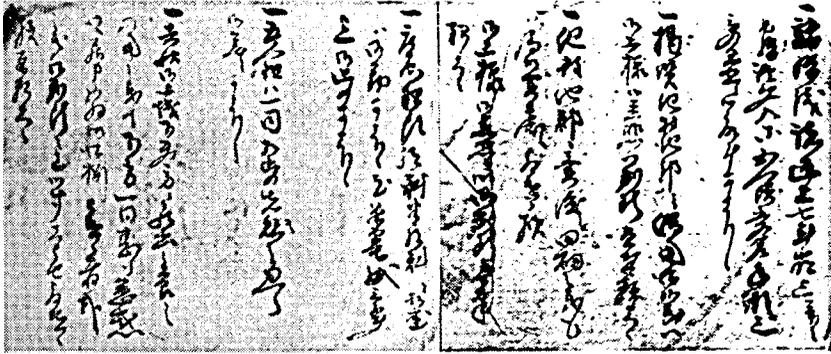
惠蘇郡村々徒党之節諸控

卯正月

郡中村々ヨリ諸願書

奉獻上口上之覚

- 一 当度飢饉食ヲ以御慈悲ヲ御下ケ被下候上^者、当年中御返上申候^而
- 一 同立行不中、慈悲ヲ以厚ク御取斗可被下候、并ニ作食之義^者当年々村々地困ニ被成下候様厚奉願上候、他村々取運候^而者失費多ク御座候ニ付迷惑仕候、右利足之義^者九朱ニ而御取斗可被下候
- 一 諸借錢諸返上七年崩迄、并ニ内借証文入等五人頭受合手形迄受置ニ御取斗可被下候
- 一 揭質他村他郡ニ而借用仕候義ハ、御上様御慈悲御判断宜奉願上候
- 一 他村他郡へ売渡し田畑之義も為御買戻し被為道候様、御上様御慈悲ヲ以御判断宜奉願上候
- 一 庄屋租頭給料半給料ニ相成候ハ御勤可被下候、尤筆墨紙三子夫迄御



止メ可被下候

一五人組ハ一同相止メ先規之
通り御戻し可被下候

一去秋御上城下夫方ニ罷出候
節之入用之義者、下方一同

甚々迷惑仕居中、如何御仕
捌被遣候者哉之義、御判断

之上御聞しらせ被為遣候様
奉願上候

一趣法米之内他都へ借り米ニ
相成候分、御上様御評諒厚

ク御取斗被為遣候様奉願上
候

一役人之義者其御村限り被成
下、入役之義者御止メ可被

下候

一儀右衛門・忠三郎・仁六・
孝一郎・幸太郎・官十・柳

作・兵八・嘉太郎役筋御止
メ可被下候

付、半三郎義者向後至迄
役筋相加へ被下聞敷候

右之ケ条通り御聞届ケ相成候
様御歎遣候、宜奉願上候、以

上

上

上

卯二月五日

御代官様

郡中村々氣動仕候付奉願上書附

一村々百姓共追々難渋ニ付、種々御願筋も有之候処案内心得違一同氣
動仕、追々恐入候為体ニ押移り候御場合、各様方厚ク教御諭被下一

同感得仕候得へ、不容易義相企候義而者、免頭并ニ御吟味被仰付候義
ハ勿論ニ候得共、格別之御慈悲ヲ以御食罪被成候得者、直ニ一同引

取御承心得違仕間敷只管厚ク奉願上、此義御評諒被下候得者追々願
意ケ条論通り願出可中、宜御取次被仰付可被下候

慶応三年

卯二月

寺院中

社人中

右三人

前書之趣得斗相約候処相違無御座候、以来不風俗不仕様私共御受合
申上候間、願之通り御聞届ケ被下候様厚ク奉願上候、以上

卯二月

御代官様

御代官様御書下ケ写し

熊申遣ヌ

四拾二ケ村中

村々百姓惣代

寺院中

社人中

三人

一此度郡中百姓一同難渋申立、徒党不風義銘々心得違相生し候処、追

々教諭筋感得仕厚誤出、尤発頭しらべ吟味之義ハ全免方其寺社并ニ
三人者共伝ひ只管願出候付、不容易事柄ニ候へ共右発頭吟味之義者
永々浮置可遣候条、此旨於心得違已後心得違無之様厚ク申聞、速ニ
一同帰村仕農業相嘗候様申聞もの也

添田伊久登

卯二月

寺院中

社人中

八谷善太兵衛

川北村庄屋清三郎

庄屋同格虎三郎

郡中村々廻村ニ而申談頭書覽

申談頭書

一此度郡内邑々者共一同氣動をよひ大変ニ相生シ候ニ付而ハ、取慎メ
として広島表々芦田甚三郎殿并ニ拙者共被差出、当御役所々添田伊
久登殿其外共出張、三日市ニ於鎮方申談候ニ付而ハ、八谷善太兵衛
等ヲ以願出候趣も有之、此余願ケ糸邑々惣代々追々申出候へ御判
断御差因ふりも有之候へ者、第一方今之形勢且ハ西口模様実以不容
易、右様依之而著上向ニ於而も御寝食も不被為安御苦勞忍召候折柄、
右等人気合一度大變之至候段、甚々以奉恐入次第此上も無之、右様
上向御苦勞被為遊候義其方とも於て者何ト存候哉、御國恩無之而ハ
下方共へ於而ハ一日も安穩渡世を難出来、誠ニ以しらずして御
思沢相蒙居候義候へ者、いかんとも御恩ヲ報不申て者相叶申間敷、
初其御恩を報申サハ此所にて何も六ヶ敷事ハ無之、只御安心を相備
候外他事も無之候へ者、弥以心得違不致銘々渡世を大事ニ仕、農業

出情親を大切家内睦敷いさゝか不風俗義、又候多人數相集候様企不
仕、別而此砌天子様崩御ニ付重キ御穩便中ニ候得ハ、殿様にも御謹
慎被為在、御月代等も不為遊候様之場合柄ニ候へハ、是等厚感服仕
具々も御苦勞不相備、一ツ成り共親たる者者子ニ教へ、年寄たる者
者若ものへ教へ、我之免此余少々ニ而も心得違申間敷、此趣一同へ
行届ケ候様可申聞旨被仰付、此度惣村夫々申請候間、聞取かたくも
のハ幾度も相尋感得致し可申肝要也

卯二月

佐々木民右衛門

福田 格藏

郡中百姓共氣動心覽

一抑此氣動之始り者慶応三丁卯春、聞も恐し正月末廿四日之夜半之頃ヨ
リ、惠蘇郡下村室住院宇祿高与申山ニテ大火ヲたき、何国之誰ヤ
らしらね共、百姓百人斗出下村へ通り、郷藏之廻リヲ尾引村新橋通
リ、其辺ニテハ人数凡二百人斗にて、夫々山王峠へ掛り山王權現社
前下村住人伴三郎宅之戸ヲ擲めき、夫々上村へ通り人数凡三百五六
拾人罷居候、同村之内大明神ニ而庄屋役人四五人も罷出、種々取斗
候へ共老人も聞入候者もなし、直ニ下原村へ向罷越候処神川平助殿
おさゝニ參候へ共、百姓共ニ見付られやれ平助待ト大声上ケ竹窟を
持テ跡々追附候へ者、直ニ神川ハ跡へ向かけりて隠ケリ、其辺
百姓凡五六百人ニ相成其儘殿垣内村江渡候、橋本孝一郎并ニ土居清
左衛門敷ニテ竹ヲ切竹窟ヲ拵者多クあり、此所ニ而ハ常門庵和尚色
々拙教致致候得共老人も聞入候者なし、其儘本郷村大源前ニテ皆休

リ、市村越し又角屋前ニ而暫ク休ミ候得者、其村庄屋善太兵衛方ニ而粥多ニ酒をほとこし皆たべ申候、夫々田村笹刈へ通り平田敷ニテ竹鉾ニ皆拵、同村川原ニテ暫ク休る其辺凡千人余罷居候、同村百姓残らず参ル、浜口屋へ罷出伝三郎へ申様ニ者、中原下角屋迄案内致せと申す者多くあり、右伝三郎殿ハ色々申訳仕候内、多人數ニ候得者、竹鉾ニテ雨戸ヲ五六枚つぎめき、又伝三郎も大ニ恐れ中庭へ罷出挨拶致候、其村下角屋迄案内致し其所ニテ其村庄屋蔵六粥の振舞有之、直ニ川北村へ罷越し其辺人数追々多勢ニ相成、道ばたニテも竹櫛拵候者もあり、其村庄屋清三郎殿も袴ニて近所迄出迎ニ被致、落付次第挨拶ニ出られ此宅ニ而酒食沢山振舞有之、此所ニ而寺院正法寺・光徳寺・高徳寺・海蔵寺五ヶ寺以上種々趣教も被致候へ共、兎角相手ニ不成其近辺山ニ而泊候、同廿六日朝半谷申す峠へこし比和組木屋原村庄屋助十郎殿之前ニテ兵糧仕出し候、此所ニ而大飯をくらひ同村掛り申す、其村庄屋忠三郎方ニ是へも多勢寄飯を食、比和町へ行其辺ニ而人数凡千五六百人居候、比和町ニテ兵糧三ヶ所相構居候、尤沓ヶ所ハ新市村庄屋同格虎三郎仕出候与申す衷也、又ハ同所隠居屋与申す酒屋ハ近來ハ神川酒造之任込之義ニ候得者、酒沢山ニ出し候得共其上むろみヲ出せと疊を擲り恐カシ、竹鉾ニテためめき大柄の輪ヲ切やら追々人数多勢相成候故人氣荒々敷事聞レ恐し、其家亭主飛し申様ハ礼酒者神川酒造ニ支ニ候得者如何様御舌被下候テモ不苦、此家祖者何卒御忠敷成と被下旨色々相断申す、同村川地屋（ト）へ申スハ庄屋宅也、是モ右振合見て大ニ恐れ、平生小間物店也、何成とも売物一切届次第差出可中と皆抵居候、夫ニ付外ニ居候丈ケ之相応ニ多葉粉・わらじ杯皆誠者多クあり、此町ニテ寺社共五人町頃ニ席を構居候而、種々趣教被致候得共兎角相手成ともなし、誠ニ坊主ハ葬ルかと太夫ハ

祈ルかと大ニ荒レ付、其儘茂脇村上リ間角申スぶけんしやあり、是も平生欲深キ家ナリ、其辺者やら小評有之百姓三四百人斗も参り無ニ無三擲めぎ、矢張其谷頃山王原ト申ス宮之前ニテ兵糧場相構居候得共、飯たらず人別へハ白米三合宛相渡スと申、其村金尾峠（主）与申辺ハ、誠ニ高き山ニハゆきも悉あり風寒キ衰ナリ、無抛深谷ニ而泊リ、同廿七日朝高の山組湯川村兵糧場式ヶ所へ相構居候、其所ニテも大飯ヲくらひ、夫々新市村へ折込町之瀬戸田ノ中ニ而兵糧場賑敷相構居、誠ニ大家衆仕出し何屋何兵ニ与申ス高札九枚建、尤其内上尾道屋兩家之義者格別夥數御馳走不少、酒ハ勿論むろみ杯沢山出、其上飯ホリ・多粉・草鞋・雨具用意杯之振舞有之、尚下尾道屋五郎右衛門殿ハ出ルか出ぬかとて竹鎌ニテ雨戸を築めき、誠ニ土足なからけんかんふみ上り大声上げ合、粟みのきて町中へ飛出テ申様ニ者、我も行々□へ広島迄来り共不苦与皆同道ニテ罷出申候、奥門田村庄屋前室屋与申ス庄屋家あり、是ハ平生相成手元宜敷家也、是も平生欲深キ悲道なる者也、これへも凡三四百人計通り色々我儘申ステモ大飯ヲくらひ、寔ニ雨具としてうすべり・とうまき・みの其外家さひ勿論、飯ホリ花杯皆實尤根来碗貫候者有リ、其余飯焚交間ニ不令人別へハ白米壹人ニ付両手ニテすくひ、誠ニ多人數之義ニ候得者何程敷相分り不申、又物置蔵之戸をたたきめきせんちんをはねかやし、諸夏家財不洩無ニ無三ニ擲めき、蒲団三四十枚斗取出し皆焼きし、一同村之内金尾与申峠ニテ泊候、尤多人數交候得者宮内村・向泉村山谷ニ所々泊候者数しれず、誠ニ大火をたき更なり月ニあまり心ニあまり、凡人数三千五六百人も居候、宮内村光明寺數ニテ竹悉ク切荒し竹槍ヲ拵候者あり、役人共ハ四五人町頃迄袴着ニテ挨拶ニ出兵糧場迄手引致候、又此所ニテ我儘申ス大飯ヲ位、兵糧場ニテ

ハ田野口義右衛門挨拶へ被出、尤兵糧仕出ニ者宮内村庄屋孝三郎・向泉村米屋之万四郎・田ノ口義右衛門高札相建居候、酒ハ沢山出し候得共是モ平生欲深キ心差悲道なる者也、尤無ニ無三擲めき、又中屋之幸三郎宅悉ク擲めきて、建物家財不残誠ニ土地門之大戸迄突めき、湯木村八藤万右衛門殿酒斗樽も式三十丁負而百姓山谷廻り罷こし、乍夜中見舞廻リ何卒旦那頼むと申たり、寂早廿八日、扱今日ハ湯木村之八藤与三右衛門殿是も酒屋并庄屋なり、湯木・永田村両村ニテ兵糧場賑しく相構居候、酒ハ勿論むろみ迄出し届次第難堪を与三右衛門ハはたしはしニテ廻リ、寂早今日ハ惠蘇郡四拾二ヶ村不残皆出揃之事ニ候得者、多人数丁度不相分、夜前ハ宮内村当リカ永田仁平原辺迄山谷所々泊候、大火ヲ焚爰数不分、又廿九日相成仁平原ニ而御上人様御上下式人御入込被遊、何卒皆納也、百姓願筋ハ如何様成ル支ニテも聞取遣し候様被仰付候得共、比和租程ハ一応居合ニ相成候得者其儘多人数之義ニ候者、脇元之高湯等村越候者数しれず、尤暮雨降りて風寒サ事故所々火を焚皆寄付すり居候得共、一同火ヲ取放し山火事故候、夫を名付として皆立上り湯木村方へ越し懸ケ、余リ多勢人数候得者逆も手ニ不合、其儘御公人様跡カ追掛落きたル候得共引取不申、又湯木村亭も兵糧場相構居候、其辺カ永田土金屋婦人乱心者老人有之、尤其婦人皆も其場所罷出親心ニ大ニ氣遣罷出候、誠ニ乱心候故竹きれニ而糸すほ竹掛ケかたぎ同道致候、門田村浜口へ又奇色々難掘り候内、同村兵糧場相構居候、其儘市村之内掛田通り三日市村神川平助方參候、誠ニ聞も恐し、多勢大ニ急ヲ上ケ門ヲはね返し、大てヲはかしちんヲはかし本宅無ニ無三擲めき、鶏迄ころし候、同村兵糧場賑しき仕出し有り、八谷久太郎・高松屋六平両家之仕出^{身而}高札建居候、色々持候得共人氣追々荒しき相成、

寂早人数ハ丁度相分不申凡四五千人口評定致者多クあり、誠ニ木切事夥敷事也、早二月朔日朝、永田村婦人乱心者宅ニ竹鎌持テ身振候て人に追掛ケ候得ハ誰ニテも相手ニす者なし、皆見物ニ致候内川北村之内繋行、谷小太郎与申者尤酒を吞酔けふ纏ニ乱心者ヲ竹鎗ヲ取乱心者たたきふせ大ニけか致し、多勢之内カ今平助見るカ跡カ追付候得共取留メ、直ニ御役所へ差出し願出候、同郡奉行様御見分右小太郎申者も三日市廻へ入牢者申付、右病人川北村田丸屋へ宿取、其後高田来太郎様御調役相勤居宅八谷庵寺ニ在住候所、此人平生神川附属心付与相見候、人数何人能出候義も相分不申、無ニ無三擲めき(後欠)

○庄原市・岩武貞正氏藏「郡中惣百姓騒動一件諸扣」(慶応三年)

(長紙)

慶応三丙卯正月廿五日起リ
 同二月三日於三日市静
 郡中惣百姓騒動一件諸扣
 本郷村 龍三郎

奉歎願口上之覚

一御代官添田殿後來長ク郡中御守護御勤役被成下様、郡中諸寺院一同奉願上度奉存候間、此段宜御取成之様厚奉希上候、以上
 卯二月三日 何村何宗

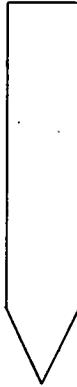
何寺

卯正月廿五日騒動相発り候節
所々へ御建札左之通り

一百姓とも相あつまりさわかしく趣ニ相聞、第一重キ御おんびん中別
不相濟事ニ候、なにらのねがいニ候哉、願之よふすこの建札江書
出候へハ承り可遣候事

卯正月廿五日

添田伊久登



此板堅沓間横八九寸位書流し也

態申遣

水越・高茂其外村々ニおゐて、御不審筋有之候者并昨夜召捕ニ相成候
所粗相聞候趣而者、水越村ニ当リ百姓共今晝江懸ヶ郷蔵所江相集リ候
哉之趣ニ候得共、右者如何様之訳而右様人寄等致し候義ニ可有之
哉、近頃連々手厚御示し之趣も候所、御場合之義別而不都合至極之義
ニ付、此後右体之義決而不仕様手厚永続可有之、勿論御不審相懸リ候
者共者被召捕候得共、其余御構ひハ無之右等之義ニ付、其外之者共迄
も危踏自然と農業相怠リ候様之義有之候而者、相濟がたくニ付何レ江安
堵いたし候、追々謹慎時分柄之義別而農業出精致し候様厚く示談可有
之、此余万一心得違之義も有之候得共、即刻嚴重之御沙汰振り可有之
ニ付、夫等之義も得斗相示し可被置、右等之趣拙者共、心付迄申達候
間、万々無油断厚く駈引有之候様ニと存候、此段申達候、以上

三月廿一日

高茂役人中
水越

追而模寄之村々へも無屹度移合被置候様ニも右之別紙写之通信太郎殿
中來リ候間、御舍之気色御知せ申上候間御考合宜しく御取計可被成
候、此段申上候、已上

卯三月廿三日

南北両相御役人中

市村 善右衛門

態申遣又

今度百姓共多人数相集リ候根元者、去年不作之所御年貢方之義ハ志宜
上納致、其跡難渋及候より差逼リ不風俗之所業ニも到り候得共、本心
ニ立歸リ願筋申出其段ハ追々御判断可被下候得共、差向難渋もの共露
命繋方差支候而ハ不捨置ニ付、是迄村方歎出依而ハ尚約メ合貸付ケリ
も取斗候得共、百姓共心得方毛頭不道理有之候而ハ、第一天道ニ相背
別而ハ上ニ奉対御国民之人情決而不相濟次第ニ付、御苦勞少ナニ相成
候様忠誠之心掛不取失、斯變年難渋之事故我人トモ食事融通方幾重ニ
も心ヲ尽シ可申、村方成立之もの共普請作事相管候ものも有之候得
ハ、夫等一方ニ而融通之一端ニも可有之歟、尤其儀見合之ものハ手当
テ之飯用等相当之直段ヲ以売払遣シ相互ニ実意勸弁相尽シ、勿論成方
之ものへ貸付米之割賦受不申、供々難渋者凌せ方之手伝仕候心得ニ相
成度、多人数之内ニ者粥ハ給不申白米之飯相好候族も有之哉ニ候得
共、此時節ヶ様之義申候ものハ無之筈、既ニ上筋ニ而ハ米之磨汁ヲ吞
相凌候様事ニも相聞候得ハ、白かゆ菜飯等鹿食之差嫌ハ毛頭不仕、と

西川理三郎

波多野八郎

福田 格藏

うぞ露命ヲ取繫表作統て稲作へ無難計候様相心懸ケ候義、急場之要旨ニ候間此旨役人共得テ相心得、百姓末々迄不洩様誠実ヲ以申聞せ、毎々役人共村内見廻リ五人頭共ハ組内相廻リ隣家共々心付申値、法外之食事決_レ不仕候様精々相導可申、自然不法之義申募候ものも候ハ、早速申出候様可申聞もの也

卯二月

ニノ郡 御役所

山ノ内兩組村々
庄屋共
与頭共

態申遣ス

先頃当郡一同之者共不風俗取結、別而重御穩便中殊ニ方今之時勢実以奉恐入難相濟義、就_レハ其方共始郡中寺院社人不容易配意ニ而、一同之ものへ種々と教諭之趣何レも致感得、本心ニ立戻リ已後毛頭不統不風儀仕間敷ニ付、発頭取并ニ吟味も不被成下候様ニ願出、素リ重御制禁相犯シ候義ニ付、発頭御糺シ之義難捨置筋ニハ候得共、已後聊ニ而も不統仕せ間敷段、寺社一同其方共ニおゐても手堅受合出、只管歎願之趣難黙止ヨリ不容易義ニハ候得共、類外寛大之所置ヲ以発頭取并ニ吟味も永く浮置之儀聞届遣シ、其段早速上聞ニも相達置、其外願出之内事品ニ依_レハ速ニ免許申付候義も有之候得共、何敷郡辻之所ニ而ハ数百ヶ条之事故容易ニ難相約リ、乍去いづれ夫々差図之品も可有之候得共、第一食糧之義ハ別而肝要之義ニ付、当年柄差向御米配リ六ヶ敷中よりも種々配意中ニ候処、郡中方角ニ寄り候_レハ兼而之約定ニ反シ、其後迎も動モスレハ不統之申値杯致候趣相聞、前頭之通り上向_レ相達置候次第も有之候処、右様之義聊ニ而も有之候_レハ実以申訳ケも無之、就_レハ其方并寺院社人一統ニおゐても兼受合出居候書面之趣も

有之難相濟義ニハ無之哉、素リ発頭取差免候ト申も最初之所斗リ之義ニ而、其後ニ至リ候_レもケ様之筋被捨置候約速ニハ更ニ無之ニ付、自然如何様之此余相聞候得ハ早速召捕敷重之吟味ニも可及、然ルヲ右之次第心得違ニ付_レハ隣郡ニ迄も其氣風相移リ候哉ニ相聞テ、実以難相濟次第ニハ無之哉、畢竟一同先祖已來之御國恩ヲ致忘却候より之義ニ而誠ニ以浅間敷事共ニ候、乍去広キ郡内ニ而も多クハ上ヲ重_レ候良民ニテ、取初之所ニ而も畢竟悪党共襲掛リ候誘ひニ依_レ而、無抛不風俗へ相加リ候もの共斗リ之由ニ相聞、是等之ものニ当リ候_レハ甚以不便之事ニ有之、斯良民ヲ惡道へ引入レ、第一御恩ヲ受居候上之御胸を奉痛候様之義仕出候ものハ至_レ而纏之事と被相考、比者共ハ上ヨリ御沙汰無之トモ何レ冥利ニ尽果可申、ケ様之惡党共此已後如何体之義勸メ立候共、器相馴レ不申様社人ハ氏子之ため、寺院者且家之為筋ニ候得ハ得斗教諭ニ及、其上聊ニ而も不統之義万一有之候得_レハ、兼々上向_レ受合出居候趣も有之候事故、早速其場へ入込差押置様子申出候様、且又已後不風儀相企候様之義有之候得_レハ、内密其段早速御役所へ申出候者ニハ、追_レ而屹度御督之上御褒美も可被下ニ付、其段も一同へ教諭および置候様、夫々急度其方共々村々役人共通リ寺社一統ニ申通之方可取斗もの也

惠蘇郡御役所

卯三月十日

年寄同格 八谷善太兵衛
社倉支配 庄屋 清三郎
川北村庄 庄屋 同 新市村 虎三郎

別享之通り昨十日被仰付甚以奉恐入免口も無之次第、此余不統不風儀之事有之候_レハ、百姓惣代之もの連印申出願出之趣一円難相立付_レハ、寺社并ニ拙者共々已來決_レ不風俗之儀仕らせ申上候詮も無之、精々及教諭不中てハ差次之受所も無之、近頃承リ候所ニ而ハ村ニ寄り百

姓惣寄リ等度々致、不都合之御貸米願其外不風儀之筋申值候方角も有之歟之様子ニ相聞、是等之義御役所へ相承候時ハ勿論嚴重之御沙汰可有之、其段ニ至リ候而ハ銘々共申訳ケハ差置、第一上向江恐入候義別而ハ其村方迷惑筋も相生シ、登頭之ものハ如何程歟難義親族迄之歎筋難申尽事ニ押移リ候間、左様之義ニ不相趣以前得テ御趣意ヲ服ニ相納メ、毛頭不風俗筋無之様厚々敷教諭有之度旨、御役人中ノ寺社中へ届ケ敷御通談可被下候、社家之氏子ハ郡中落洩無之候得共、寺院ニおゐてハ他郡之寺院へ相懸リ且家も可有之候へハ、是等ハ村内之寺方又ハ同宗之寺院等より落洩之義無之様、末々迄御懇諭被成度与奉存候、右之趣村役人中ノ寺社中へ早速宜御通談可被下候、己上

卯三月十一日

年寄 同 格 八谷善太兵衛

社倉支配役

清三郎

同 同

虎三郎

何村庄屋何兵エ様

同 同 —— 様

右村々組頭中

右之趣村々庄屋より寺社中へ写ヲ以及示談、尚又早速寺社方より村々ニ而惣寄ヲして御懇ニ申聞せ有之候事

(付記)

資料閲覧にあたって、岩武貞正氏御夫妻には格別の御配慮をいただいた。この場を借りて感謝の意を表したい。